

「信念と若さ」

～あなたは本当に若い？～

詩篇 103 : 1 - 6

■ 若さとは何でしょうか…

皆さんは若いですか？それとももう若くないと感じておられますか？私たちの目は10才でピークを迎えどんどん衰えていくそうです。耳は20歳がピーク、神経や筋力は30歳がピークを迎えます。確かに体はどんどん動かなくなっていくそうです。けれど、脳は50歳から成長期になるそうです。30歳までの知識や経験、若い時に受けたこと…それらを下地として、脳はどんどん新しいことを考えようとしています。けれど、心の感情をつかさどる脳の部分が「やりたい」と思っている脳の部分に「無理だ！」と言ってくるのです。現代は若い世代がやる気も元気もなく疲れやすい傾向があります。これは体が衰えているのではなく、脳が衰えているのです。神様の前に私たちの経験をうなぎ上りに用いていくならば、たとえ100歳であっても神様の栄光は私たちを通して現されていきます。

■ ダビデ…

今日の聖書箇所はダビデの歌です。ダビデが人生の戦いの中で自分を強く、若く保つために見出した方法が神様をほめたたえることだったのです。彼の生涯は国家全体が自分の命を狙うという、私たちにとはとうてい耐えることのできないようなものでした。けれど、ダビデは私たちと同じ人間で、特別な人でもなく、ずば抜けて優れた能力をもった人でもありませんでした。生まれた育ったのは羊飼いの家です。末っ子で家族からは重要視されず、オオカミから羊を守る仕事でした。そのようなダビデのもとに突然預言者サムエルがやって来て、強そうで外見の良い他の兄弟達ではなくダビデに油を注いだのでした。「…人はうわべを見るが、主は心を見る。」(I 申16:7)と聖書に書かれているように神様が見ておられるその目は、力強そうで、まだやれそうで…そういった私たちの外見ではありません。私たちの心の内側、私たちの心が何を思っているのかを見ておられます。ダビデは虐げられる成長の中で自分の大切にしている羊たちの面倒を命がけでみていました。石投げをもって戦いを学んでいました。ダビデはどんな状況の中でも喜んで生きる道を選択していました。神様はダビデのその心を見ておられました。

■ 種を蒔く時…

先週のメッセージで種を蒔くことが語られました。皆さんは種を蒔かれていますか？「涙とともに種を蒔く者は、喜び叫びながら刈り取ろう。種入れをかかえ、泣き叫びながら出て行く者は、束をかかえ、喜び叫びながら帰って来る。」(詩篇 126:5-6) 種を蒔くことも蒔かないことも選ぶことができます。けれど、良い日も悪い日も種も蒔かなければ収穫はありません。種を蒔く時に大切なことは信じることです。収穫を確信し、願うことです。そして、その中でどうかかわり、どう見、どう触れるかが大切です。水をやりすぎてもやらなさすぎても枯れますね。そのためには私たちは心を若く保っていなければなりません。

■ ①あなたの老い(問題)を捨てる

老いは問題です。疑い、恐れ、不安…そのようなものがあなたを駄目にします。不安によって得られた間違った価値観が多くの人を狂わせているのです。ちょっとしたことで劣等感に陥ったり、目の前の問題を素直に言えずに裁いてしまったりします。私たちはそういったものを持ち合わせているのです。せっかく種を蒔いてもあなたの価値観を人に押し付けた時にあなたの農作物も壊れます。そのことをよく覚えてください。言っていることが正しければ良いですが人の価値観というものはいだいたいが正しくないのです。「普通」「常識」と言われることはほとんどが間違っています。「みんなが言っている」という言葉

が自分から出てきた時は間違っていると思ってください。みんな価値観が違い、人間の価値観はあまりにもズレているのです。だから神様は「聖書」を与えてくださったのです。

■ ②心の皺(しわ)をとる

古い価値観は心の皺です。取扱説明書に書かれている通りに使われず壊れてしまう電化製品のように自分自身が間違っ使用されているらどうですか？口は正しく使えていますか？目線は正しくできていますか？古い価値観で怒ることが問題なのです。自分の正論を人に押し付けるために怒るというのは大失敗です。それはその人を生かすためにやっているのではないからです。人はその相手を生かす時には怒りません。厳しく「叱る」ことや怖い態度を取ることはあってもそこには怒りはないのです。怒っている時というのは正論を引っ付けてきているだけなのです。

「群衆」になるのは簡単ですが、群衆は信念を持っていません。だから文句ばかり言うのです。現在日本人の多くは群衆になってしまいました。政治が、国家が、学校が、教育が…みんな人のせいです。「人のせい」を取るためにはまず私たちの心の皺を取ることで。私たちの心が大切です。神様に目を向けて私たちの置かれている状況を通して神様はどんなことをしておられるのかを思うのです。そうすると問題がなくなっていくます。十字架を通すと目の前の真つ暗闇の問題が青空に変わるので。私目を開いてください。私が、あなたのみおしえのうちにある奇しいことに目を留めるようにしてください。」(詩篇 119:18)

■ ③心に信じ…口で告白…したように！！

信念と若さを保つには心で考えることが大事で、その次に口で告白することがすべてです。悪い言葉を発したらそのようになるのです。子ども、家族、職場、友人・知人…に普段どのような言葉を言っていますか？言葉は生きて働きます。言葉を整えなければなりません。「それから、イエスは百人隊長に言われた。『さあ行きなさい。あなたの信じたとおりにするように。』すると、ちょうどその時、そのしもべはいやされた。」(マタイ 8:13) 信じた通りになります。枯れると思って種を蒔いたら枯れます。けれど、絶対に大丈夫だと信じて蒔くと育ちます。必ず色づいて収穫できるようになることを信じましょう！育つかどうか悩み、やり方がわからないと心配する前に説明書である聖書を開いて読み、自分の心がその説明書通りに動いているかどうかを見て下さい。信じていることは何か、疑い・不安・恐れが間違った方向に導いていないか、確認していきましょう。

(要約者: 全本 みどり)